

福岡大学第2外科における胃癌症例の臨床統計（1995-2004）

三上 公治¹⁾ 前川 隆文¹⁾ 酒井 憲見²⁾
秀島 輝³⁾ 篠原 徹雄¹⁾ 星野誠一郎¹⁾
乗富 智明¹⁾ 山内 靖¹⁾ 白日 高歩⁴⁾
山下 裕一¹⁾

1) 福岡大学医学部消化器外科

2) 川浪病院外科

3) Dana-Farber Cancer Institute

4) 福岡大学医学部呼吸器・小児・乳腺外科

要旨：福岡大学医学部第2外科腹部グループにおいて1995年より2004年までの10年間に初発胃癌に対し外科的治療714例を行った。年齢層は60歳代が236例と最も多く、続いて70歳代204例、50歳代138例と続いた。単発癌が657例、多発癌が57例で8.0%を占めた。癌占拠部位は中部と下部（M・L領域）が多く、肉眼型は0-cが最も多かった。早期癌は366例（51.2%）であった。癌摘出ができた症例の累積5年生存率はstage Ⅰ 86.6%、stage Ⅱ 71.6%、stage Ⅲ 38.7%、stage Ⅳ 11.6%であった。

索引用語：胃癌，治療成績，福岡大学，外科治療